

第22回

群馬県

図書館大会

紙と電子、その先へ

—誰もが読書を楽しめる社会を目指して—

2026 11/26 木 10:30-16:40

会場：群馬県立図書館 3階 ホール

図書館に関心のある方をはじめ、どなたでも参加できます

午前の部

式典・表彰式

10:30～11:30（受付10:00～）

午後の部

基調講演・体験会 12:45～16:40（受付12:15～）

第1部 基調講演

ICTを用いた読書の支援と促進

～認知科学・デジタル読書体験から見えてきたこと～

講師：柴田 博仁 氏（群馬大学大学院情報学研究科教授）

第2部 基調講演

紙もデジタルも当事者が選べる読書環境の実現をめざして

講師：成松 一郎 氏（㈲読書工房代表・専修大学文学部講師）

第3部 紙と電子の体験会

第4部 トークセッション

誰もが読書を楽しめる社会を目指して（仮）

申込×切

11/4(水)

参加費無料

お申込みは予約フォームから

<https://logoform.jp/form/9cfD/22taikai>

午前の部の参観、動画配信の申込みもこちら



お問い合わせ先

群馬県図書館協会事務局（県立図書館 企画・地域協力係 担当：飯塚、橋本） ☎027-231-3008

主催：群馬県図書館協会

後援：群馬県教育委員会

午後の部 基調講演・体験会 12:45～16:40（受付12:15～）

第1部 基調講演

ICTを用いた読書の支援と促進

～認知科学・デジタル読書体験から見えてきたこと～

講師：柴田 博仁（しばた ひろひと）氏

群馬大学大学院 情報学研究科 教授



専門は認知科学とユーザインタフェースデザイン。読み書きの理解とICT支援を目指す。2003年、東京大学大学院 工学系研究科 博士課程修了。博士（工学）。富士ゼロックス株式会社 研究主幹、東京工科大学 兼任講師、大妻女子大学 非常勤講師、人工知能学会理事、日本画像学会フェローなどを歴任。2020年より群馬大学 社会情報学部教授。2026年4月より現職。文部科学省デジタル教科書に関する有識者会議のメンバー。

著書に『ペーパーレス時代の紙の価値を知る』（産業能率大学出版部, 2018）、『Why digital displays cannot replace paper』（Springer, 2020）、『電子書籍時代の紙の本の価値』（産業能率大学出版部, 2026）。

趣味は温泉、散歩、日本酒。夢は前橋での本のまちづくり。

読書はなぜ必要か。今後の読書推進はどうあるべきか。本は紙で読むべきか、デジタルで読むべきか。認知科学の実験や長期にわたるデジタル読書体験から見えてきたことを踏まえて、こうした問いに答える。没入感をもたらすVRでの読書、本の感想を共有して人とつなぐ読書SNSなど、研究室で試みている研究も紹介。

第2部 基調講演

紙もデジタルも当事者が選べる読書環境の実現をめざして

講師：成松 一郎（なりまつ いちろう）氏

（有）読書工房代表、専修大学講師、編集者・ライター



1961年神奈川県横須賀市生まれ。学習院大学卒業後、横浜国立大学教育学部臨時教員養成課程修了。

いくつかの出版社勤務を経て、2004年読書工房を設立。おもな著書に『みんなでつくる「読書バリアフリー」—だれもが読める本のかたち』14歳の世渡り術（河出書房新社）、『五感の力でバリアをこえる—わかりやすさ・ここちよさの追求』ドキュメントUD（大日本図書）、『読書バリアフリーサポート入門—誰もが読書を楽しめる社会へ』（共著・読書工房）ほか。

2030年からデジタル教科書が学校現場に入ることを契機に、新聞やネット上で、「デジタルか紙か」といった議論が盛んにおこなわれている。読書にバリアのある人の特性やニーズは多様であり、本来は当事者（あるいは当事者をサポートしている人）が複数の選択肢の中から、その人にあった読書スタイルを選ぶ、あるいは併用することが重要であるというテーマについて話してもらう。

第3部 紙と電子の体験会

バリアフリー書籍関連展示、電子書籍体験

協力団体 群馬県立点字図書館、甘楽町図書館、桐生市立図書館

協力業者 （株）紀伊國屋書店、（株）図書館流通センター、丸善雄松堂（株）

第4部 トークセッション

誰もが読書を楽しめる社会を目指して（仮）

登壇者 柴田博仁氏、成松一郎氏

ファシリテーター 群馬県立図書館長